



笑劇団 ひと花



3月16日に「ひと花シンボジウム」(後)を開催する。  
私たち利用者は去年七月に開所以来、様々な  
アートプログラムでお世話をうけていたが、力仕事も出  
来て、手先も無器用な私は身ら静や俳句の  
アートナラムに参加させていたたいていた。  
去年「葉と茎屋文化祭」で「ひと花美劇団」と題して  
20分程の喜劇を出したが、失敗やトチリの連続  
ながら暖かい御声援をうけた。3/16には二本目  
として名作「人生双六」をベースに脚色した物を出す。  
名人上手が何百回と演じられた芝居には、もちろん  
足下にも及ばないが、大阪の文化の香りをほんの  
少しだけでも感じていただけたらとの想いで、今けいこの  
真最中である。

① 土を耕す事は田返すと言、田畠に作物を植える準備として田畠を掘り返す事です。土は自然の一部ですが愛情を擱って土に接すれば土も答えてくれよい土になります。畠園に一度は天地返しを心掛け無いと土が締まって硬くなり、植物にとってはよい土とは言ません。

その日も上司とおさけをのんで おそらくなりました  
いつものガード下をとつて まんながごろまでくると 教会の3次  
3人がかわあみにむかつ おいのりをしていました。

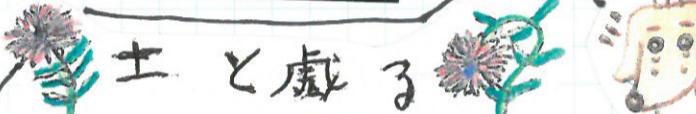
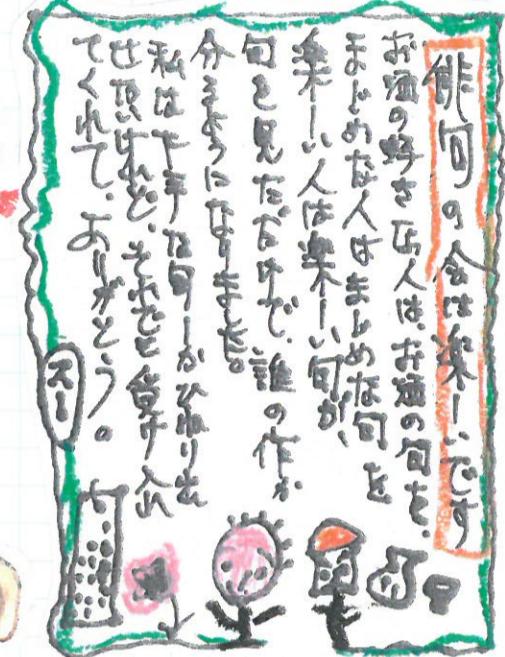
シスターの足元を見ると、ダンボール箱にキリストとじめじ方のえを  
かけた物があり、白りきくの花束があ置いてありました。  
ぼくはなにがありましたかとまくと年をとったシスターが  
いつもここでかなあみの目をかせていろ、白いひげのおとうさんが  
あさのさむさでとうししておとおとおとおとおとおとおとおとおと  
ぼくはびっくりしてシスターにいろいろしつもんをしました。  
あのヒゲのおとうさんはあさと夕方、教会でおてつだいをしてパンを  
もらっていたそうです。  
年は70歳で大会社の社長をしていました。  
バアルがはじけて少しあたまがおかしくなってここにすみました。  
ぼくはなんでかなあみの目をかせていろのかとまくと  
あの人ほせいじょうのじょうがら、あわりまでーのあしんをアツアツ  
いいながらかかえていたそうです。  
ぼくはあのせいじょうをせんぶあんきしているとまいてびっくりしました。  
シスターにゆがれまづぎが下を下ると雪がかかるました。  
今日は12月24日です。  
あのヒゲのおとうさんが今日なくなったのもかみさまのおみちべき  
かもしれません。  
ぼくも手をあわせてヒゲのおとうさん天国でしわせになって下さいと  
いのりました。(完)

仲間の人生模様を聞きながら  
吾輩自身の人生をちょいと織りまさげて  
書きつくる。各人各様の人生模様は  
百花隣乱、痛々しいもの、哀しいもの、  
楽しいもの、怒りのエネルギーにあふれたもの。  
とてもじやないか“食うに生きないので”  
車に駆けまいとは思いつつ 軽くペースの味を  
加え 書きつくる ちょっと泣きたくなるのが  
作品となる。でも何故か 湿まるよ心が

一一一

# 詩の時間

【ひと花句会 今月の俳句】



父地水く火災難の地球に感謝父地主

② 天地返しとは土の表層部と下層部とを入れ替えたため  
深く耕す事です。

天地返しは土の中に空気と栄養を均等にとどける  
役目をします。

植物は根から酸素・水分栄養を吸収し、葉から太陽  
光で光合酵素をして酸素を排出して育つのです。

野菜も地球の空気浄化作用の一役を担っています。

天地返しは農業の基礎です。これから詳しく説ける  
つもりです。



樂しき絵本の



WS 講評会で絵本の読み合わせをして、紙芝居を演じたりしていますが、どちらも一人ずつやる方が多かったと感じます。同時に多数参加出来る紙芝居をやめてみようと考え、今回「紙芝居「かぐや姫」を作りました。音物語りの絵本を参考にし、セリフを振り分けし又追加し紙芝居をしました。次回は自分の作品を作成してみたいと思っています。